

## 果樹振興へ情報交換

神奈川県相模原市初の放談会

【神奈川・相模原】

相模原市果実組合は3月上旬、同市緑区役所で「放談会」これからのさがみはらの果樹振興」を開催した。生産者や県農業技術センタ

ー北相地区事務所、JA相模原市営農経済部、JA神奈川つくい営農経済課の職員ら18人が参加した。

同組合が設立されて66年。市内の果樹振興

には、生産技術の向上や販売戦略、販路開拓などの課題がある。

放談会は、生産者同士が自由に意見や情報を交換し課題と向き合うことで、これからの相模原の果樹をより立てるきっかけにする目的で初めて開かれた。

参加した生産者は「果実でも相模原ブランドを開発したい。行政の力が不可欠」「PR方法を積極的に考えてほしい」などと積極的に意見を述べた。

同組合の三澤勝重組合長は「相模原の果樹生産をどのように発展させていくか、生産者同士で貴重な情報交換ができた。今後の糧にしていけたらいい」と話した。